

# 学校だより 高遠の子

伊那市立  
高遠中学校

2021.3.18

## 観桜期学習会（3・9）



観桜期ボランティアを直接経験したことがある3年生から、ボランティアのポイントや留意点を教えてもらいました。

## パワーアップ学習室

地域の皆様にご支援いただきました。  
ありがとうございました。

来年度も「パワーアップ学習室」を開設の予定です。生徒の皆さんの多数参加と、地域の先生方に再び学校に来ていただいて指導いただけますことを願っています。



## 読み聞かせに、スペシャルゲスト（2・18）



高遠高等学校の司書、有賀拓郎先生による読み聞かせ（道徳）が3年2組でありました。

有賀拓郎先生は、小説家でもあり、この日読んでいただいた「明日のぼく」の作者です。こんな近くに小説家の方がいたということにびっくりでした。出会った生徒さんは、どんな感想を持ちましたか。

### 3学期のギャラリー



1年生 美術 「陶芸」  
“土と炎の芸術”  
2学期つくったランプシェード  
です。1月に素焼きをし、上薬  
をかけ、本焼きをしました。温  
かな雰囲気の商品がたくさんで  
きました。



1年生 美術 「デザイン」  
モダンテクニックをいくつか組み  
合わせて作品をつくりました。  
台紙への貼り方も人それぞれで、  
個性あふれる作品がたくさんで  
きました。

2年生 美術 「絵画」  
“風流を学ぼう”  
「風流を学ぼう」をテーマに金屏風を制  
作しました。修学旅行学習の一環として  
屏風・ふすま絵という日本文化に触れま  
した。古風な色彩の作品、現代的な作  
品、さまざまです。



## 3学期終業式（3・17） 校長講話

「東日本大震災から10年」

おはようございます。本日で3学期、令和2年度の終業となります。この1年、新型コロナウイルスのために、例年とは異なる学校生活を送ることとなりました。行事の変更や縮小がある中、生徒のみなさん、一人一人がその場で何をどうしたらよいか、考え、取り組んできました。その取組によって、皆さん一人一人の考える力、実行する力が伸びるとともに、高遠中学校が高遠中学校として、立派に存在できたと感じています。

新型コロナウイルスと対比して話が出てくるのは、およそ100年前のスペインかぜがあります。その歴史については、それぞれ調べてもらいたいと思いますが、ここで話したいことは、歴史から何を学び、これからの生活にどう活かしていくかということです。

今から10年前の3月11日、皆さんも知っての通り、東日本で起きた大地震によって、多くの命が奪われ、家が流され、町が壊され、原子力発電所の事故が起きてしまいました。3年生の皆さんが5つの時の話です。もしかしたら、これまでに体験したことのないあの揺れをまだ覚えている人もいるかもしれません。大きな津波が災害を大きくしてしまいました。

5年前の4月、熊本地震は、立て続けに大地震が起きるという経験したことのない地震がありました。熊本城の被害はテレビでもたくさん放送されていますが、それだけではなく土石流、地すべり、がけくずれによって、多くの命が失われています。一昨年は集中豪雨により、千曲川の堤防決壊で長野市内を中心に大きな災害に見舞われました。高遠も、過去に大きな災害に見舞われたことがあります。

この地球上で暮らすということは、様々な災害、これは自然災害もあれば、火災や交通事故を代表とする、人によってもたらされる災害もありますが、様々な災害と向き合って生きていかなければならないということです。生きるために必要なことはおそらくたくさんあると思いますが、私からは2つ話をします。

1つ目は、自分の命をいかに守るか。そのためには、今、ここで起きうる災害を想定する想像力をも

ち、命を守る行動をいち早くとるということです。「正常性バイアス」という言葉を聞いたことはありますか。普段の生活では、これによって心の安定が図れますが、大災害などで、自分の身に大きな危険が迫っていて、すぐに逃げなくてはならない時に、「自分は大丈夫」と思い込んで行動に移さないという心の働きです。体験したことがないものは想像しにくいものです。だからこそ映像や資料、過去の歴史から学び、避難訓練などによって行動を学ぶ必要があるのです。

2つ目は、周りの命を守るということです。そのためには、周囲に気を配る、気配りの気持ちであるということです。釜石の奇跡と呼ばれていますが、東日本大地震では、中学生が住民に声をかけながら非難し、多くの命が救われました。江戸時代、南海沖でおきた大地震の際の話として「稲むらの火」があります。わらを積んだ「稲むら」に火をつけて、避難路を示して津波から多くの人を救い、さらに私財を投じて、地震に備えて堤防をつくったという話が残されています。

自分を大切にすること、周りを大切にすることは、これまでも話をしてきたことですが、東日本大地震から10年という節目の年に、改めて、今、何をどうしたらよいか、考えることの大切さについて、お話をさせていただきました。

10年前の大地震の日、3学期の終業式が終わり、卒業式の準備を整えて、明日を待つばかりとなっていた学校が多くありました。私は、明日を迎えられるということに感謝しかありません。みなさんにとって大切な一日となることを願っています。

（3月11日、東日本大震災発生時刻に合わせて全校で黙祷を捧げました。）

ありがとうございました

高遠中学校PTAの皆さんのご厚志により令和2年度PTA会計から「教育活動費」として学校に15万円のご寄付をいただきました。このお金で、現在、取組をすすめている“萌えキャラ「高遠さくら組」”のクリアファイルを作成し、全校生徒に配布することができました。3年度入学生徒にも配布の予定です。生徒の活動に資するよう大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

## 一年間ありがとうございました

転任・退職職員からのごあいさつ

令和2年度3学期の終業式を昨日行い、本日は、令和2年度卒業証書授与式を挙行いたしました。

今年度は、昨年度末からの新型コロナ禍の中、様々に変革を求められた一年でした。生徒の皆さんにとって、どのような一年間だったでしょうか。各学年、学級での話や、お便りなどを通して振り返り、次年度へのステップアップの準備をしていただきたいと願っています。年度末の休みの留意事項に心掛けて、有益な休みにしてください。

保護者の皆様には、例年と異なることも多く、いつもと違う対応をお願いすることとなりました。「朝令暮改」は好ましいことではないことを承知しつつも、こればかりは予断を許さない状況であったことをお汲み取りいただき、そのうえでご理解とご協力をいただきましたことに改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さんには、学校教育目標「学べばすなわち得る」の言葉通り、本校で学んだことを、次のステップで活かしていただきたい、大きく羽ばたくことを切に願います。

在校生の皆さんには、新たに新入生を迎え入れ、仲間とのつながりを大切に、新たな高遠中学校での歴史を紡いでほしいと願っています。

「どこにいても、あの空は繋がっている」私の好きな言葉の一つです。“一つ屋根の下”から、“大きな一つの空の下”になりますが、共に学んだということ胸に、それぞれ新たな一歩を踏み出してください。

「たかとほは山裾のまち古きまち  
ゆきあふ子等のうつくしき町」  
(田山花袋)

在職期間は長短ありますが、高遠中学校で皆さんと一緒に学べたことは、一生の宝物です。校内ですれ違うときの挨拶、黙想で心を落ち着かせて黙々と床を磨く清掃、水やりで精を出し美しく彩る花壇、学活の時間に聞こえてくる歌声、素直に懸命に取り組む皆さんの姿のことを詠んでいる短歌だと思います。私たちはそれぞれ新しいステージへと進みます。皆さんも次のステージで十分に力を発揮してください。保護者の皆様、今までさまざまな場面でお支えくださり本当にありがとうございました。